

■孝謙天皇(称徳天皇) 40代・48代天皇(女帝)。内親王初の立太子。寵愛した道鏡が皇位狙い、〈宇佐八幡神託〉事件に。

こうけんでんのう

養老律令・・・718＝文武天皇第一皇子首(おびと)の娘に生まれる。母は藤原不比等の娘光明子。

藤原不比等没 720＝2歳：

聖武天皇即位 724＝6歳：父が聖武天皇として即位、

渤海交流始・727＝9歳：

長屋王の変・729＝11歳：母が光明皇后となる。

・・・・・・736＝18歳：

藤原四卿没・737＝19歳：藤原不比等の遺児四卿相次いで死去。

橘諸兄右大臣 738＝20歳：内親王(未婚の女性)初の立太子，東宮学士は吉備真備であった。

大仏造立詔・743＝25歳：皇太子としての存在を知らしめる目的から，内裏でみづから五節を舞う。

行基初大僧正 745＝27歳：

孝謙天皇・・・749＝31歳：*聖武天皇の譲位によって即位するが，実権は，紫微中台を設け藤原仲麻呂を紫微令に任じた母の光明皇太后が掌握していた。

大仏開眼・・・752＝34歳：遣唐大使藤原清河に酒肴を賜ったときの歌2首が「万葉集」，ほかに1首ある。東大寺大仏の開眼供養会の帰途，仲麻呂の私邸田村第に還御して御在所とする。この頃の両者の親密な関係がうかがわれる。

鑑真来日・・・754＝36歳：来朝した唐僧鑑真に伝燈大法師位を授け，東大寺大仏殿前で受戒。

・・・・・・755＝37歳：聖武・光明の両親の平安長生を祈り，49僧を請じて供養したが，

聖武天皇没・756＝38歳：聖武太上天皇の死去後，遺詔によって道祖王(父は新田部親王)を皇太子とするが，

橘奈良麻呂乱 757＝39歳：淫縦を理由にまもなく廃太子し，代わって藤原仲麻呂といわば養父子の関係にある大炊王(父は舎人親王)を立太子させる。反発した橘奈良麻呂らの謀反を，未然に鎮めて与党を一掃し，

孝謙天皇譲位 758＝40歳：人の子として母光明に孝養を尽くしたいと，*皇位を大炊王(淳仁天皇)に譲る。

光明皇后没・760＝42歳：母の光明皇太后が死去し，

・・・・・・761＝43歳：近江保良宮に行幸した頃から，看病禪師の道鏡を寵愛したことが問題となって，淳仁天皇と不和となり，

新羅征討計画 762＝44歳：平城宮にかえるとそのまま法華寺に入り，'国家の大事と賞罰は朕(孝謙)が行い，常祀と小事は今帝(淳仁)が行え'と宣言する。かくして淳仁天皇を擁立する藤原仲麻呂派との対立が激化し，

押勝暗殺計画 763＝45歳：

惠美押勝の乱 764＝46歳：*ついに惠美押勝の乱が起こったが，追討軍を派遣して仲麻呂一族を湖西に敗死させ，淳仁天皇を廃して淡路に配流し，代わって重祚した。仏教偏重の政治を展開し，四天王の加護を祈って造像を発願，

西大寺・・・765＝47歳：西大寺が創建されたほか，戦没者の冥福を祈るため木製の三重小塔100万基を造って南都十大寺に分置した。道鏡を太政大臣禪師に任じて政治の専断を許し，

道鏡法王・・・766＝48歳：ついで法王の位を授け，法王官職を設置した。皇嗣未定のままでのこうした体制は，和氣王の変・不破内親王巫壺事件などにみられる皇位継承の混乱を引き起こしたが，

宇佐八幡神託 769＝51歳：大宰主神が八幡神の託宣と称し，道鏡を皇位に即かせることを奏上する事件に発展。八幡の神命を聞くため和氣清麻呂を宇佐へ遣わしたが，清麻呂が道鏡を皇儲とする勿れと復命したため，これを妄語で，偽りを奏したもとして姉の法均とともに配流した。その立場が不利になった道鏡は積極的にその郷里河内へ称徳をいざない，離宮由義宮を西京にさせるなどして権勢の保持につとめた。

称徳天皇没・770＝52歳：*惠美押勝の乱で戦没した者の冥福を祈るため造らせた三重小塔百万基が完成した頃から病臥し，河内由義宮(西京)から還幸後，平城宮西宮で，没した。大和国添下郡佐貴郷高野山陵に葬る。「正倉院文書」中の造東大寺司沙金奉請文に記された「宜」の字は自筆といわれる。